



ホームページに掲載されている新制度に伴う保育園入園の案内

子育て・教育環境の充実

題点も指摘されているが、かつての企業献金などによる政治に回帰してはならない。ベストな制度ではないがベターな方策として創設されたものと認識しており、現制度を改善する形での議論をすすめることが現実的な判断と考える。

◆保育園入所要件の拡大を

問 人口減少社会では子育てしやすい街づくりが重要、特に重視した政策は。(山口)

答 若い世代が希望を持てるよう、多子世帯に、3歳児以上の保育料減免拡大を実施、乳幼児は家庭での育児を応援するための施策を講じていく。



今年度リニューアルされる子育て応援BOOK

問 出産・育児と仕事の両立支援は重要。社会や企業は子育て環境の整備を推進することが必要。育児休業時には上の子の保育園継続利用を望む声があるが対応は。(山口)

答 保育園入所要件に継続利用が必要な年長児を加えた。

問 子ども・子育て支援法では育児休業時の対応は、子どもにとっての視点から判断し、2人目・3人目と出産しやすい環境づくりが重要とある。県内では上の子の年齢制限なしで継続利用を認めている市が6市ある。本市でも入所要件を拡大すべきでは。(山口)

答 今後検討したい。

問 子育て支援策はタイムリーな情報発信が必要。スマートフォン用に子育て情報アプリを活用し、サービスの提供を始める考えは。(山口)

答 出来るだけ早く対応していきたい。

◆教育条件の改善について

問 車椅子使用を必要とする児童への対応でエレベーター設置などの検討は。(鈴木)

答 設置は西小学校1校。費用、設置場所などから、新たな設置は困難であり、教室配置の工夫など検討していく。

問 就学援助制度で、入学、修学旅行など、実際にお金がかかるときに使えるように改善を求めてきた。新年度での改善の見通しは。(鈴木)

答 支給要綱等を改定し、市教育委員会が特に認める場合、年3回の支給月以外に随時支給できるようにしていく。

◆塩尻の特色ある教育

問 特色ある教育活動交付金が、年次的に行われるべき施設整備や備品購入に充てられ



塩尻西小学校のエレベーター



特色ある教育活動交付金で設置した短歌掲示板(広丘小学校)

ているが、不足しているのではないかと。今後予算の見直しが必要では。(宮田)

答 楽器など高額で単年度で整備できないものを認めた。

問 市の特色ある教育とはどのようなものか。(宮田)

答 一人ひとりの子ども達に真摯に向き合う教育と考える。

問 小中一貫の連携強化についてどう考えるか。(宮田)

答 地域コーディネーターを配置し、中学校区単位の連携に力を入れていきたい。

障がい者雇用の促進

◆障がい者雇用について

問 市は法定雇用率23%を満たしているか。(宮田)

答 225%である。